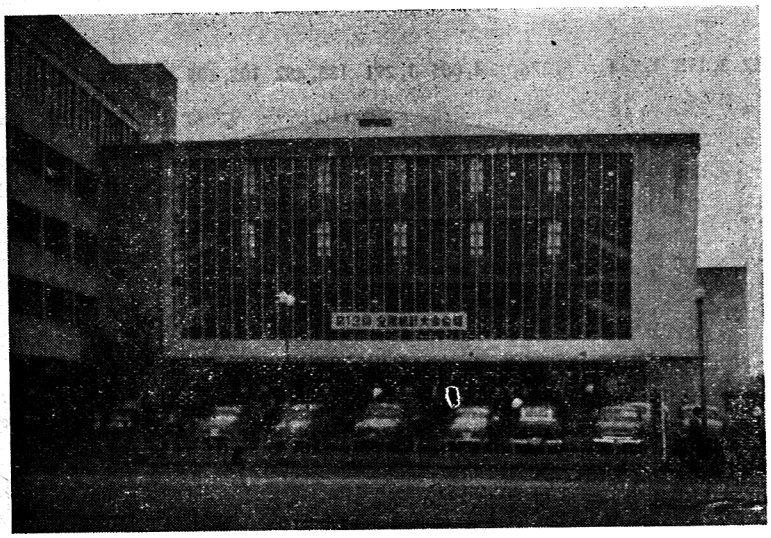
第12回全国統計大会から



第12回全国統計大会会場

（市公会堂）

富山城の南東にある近代的建物で，昭和29年3月に工費2億数千万円を投じてつくられました。

その大ホールは固定席が 2,300 の外，廻転舞台，移動花道，映写設備，音響板装置などを備えており，全国屈指のものとして好評を博しています。またこの建物内には大小集会室，食堂及び商工会議所等があります。

富山県勢の展望

「富山」といえば「くすり」。このトレードマークは，日本海側随一の工業県あるいは観光県と称してみても，なかなか消えそうにもありません。新しい富山県の姿が世間に知られないのは，雪国の名から受ける後進的なひびきや，京浜，阪神，中京等との交通が不便なこと，完成品まで生産する一貫工業が発達していないことなど，それ相当の理由もあるようです。

富山県の産業も県民生活も，すべて川によつてはぐくまれてきました。立山を主峰とする日本の屋根中部山岳から渓谷を縫い富山平野を貫いて富山湾に注ぐ大小百本あまりの急流は，安くて豊富な電力と工業用水を富山，高岡を中心とする大工場群に供給し，穀倉富山平野を育てています。

しかもこの大いなる自然は，まだまだ開発の手を待つています。そこで昭和27年以来，県が中心となつて，富山県総合開発計画や同修正4個年計画を実施してきました。この計画もいよいよ終了し，昭和36年度からは所得倍増をめざす県勢総合計画をたて，野に山に海に，県土を総合的に開発していくことになりました。この計画がほぼ完了する昭和45年には，新しい港と新しい工業地帯が射水地帯に出現し，農業や漁業は企業的近代的経営に体質改善を遂げ，各河川には多目的ダムが築かれて，水はむだなく合理的に配分され使われます。一方，現在開発のがんともいえる交通事情も，北陸線の複線電化，主要道路の整備，航空路の開発等により解決し，基幹都市と衛星都市，農村，工業地帯がひとつの有機体のように密接に結びつきます。中部山岳は，立山の山腹をぶち抜く観光産業道路によつて長野県側と直結し，四季観光客で賑わいを見せましよう。

ここで電源地帯としての富山を紹介しますと。県内の水力発電所は77個所，発電力119万4千キロワツトで全国の12.3%に及んでいます。また包蔵水力は466万キロワツト，発電可能の地点が90個所もあります，北陸電力の有峰ダム（26万7千キロワツト）も完成しつつあり，関西電力の黒部川第四（25万8千キロワツト）も37年に完成の予定であり，そのときこそ名実ともに日本一の発電県となります。県営電気は，多目的ダムを中心とする河川総合開発として，井田川・小矢部川・和田川・上市川で調査，建設が進められています。

このように，本県がその持つ条件を総合開発していき，北陸経済圏の確立ひいてはわが国発展のための貴重な存在となるのも，そう遠くないことといえましよう。

富山売薬

300年の歴史と伝統に輝き，年産額は今や30億円を超え国内は勿論，遠く海外にまで進出をみせているのであります。

その基礎とかたちを作られたのが富山2代藩主の前田正甫公で，天和年間に備前岡山の医師，万代常閑（もず・じようかん）が富山城下に来遊して起死回生の妙薬「反魂丹」を公に献上し，この製法を伝えたことにはじまります。また配置売薬は，公が江戸に参勤中，元禄3年8月1日……徳川家康江戸入城記念日……の式日登城の折一大名が突然はげしく苦悶され殿中が大騒ぎとなつた時，公は持薬の反魂丹一粒をすすめたところ，病気がたちどころに治つたので，4代将軍家綱はじめ列座の大名は薬効のすばらしさに感嘆され，それぞれの領内に反魂丹の販売を懇請されました。そこで松井屋源右衛門につくらせ八重崎屋源六に命じ，〃先用後利〃即ち良い製剤を配置して，病の治療に役立てることが第一で，利はその後にせよの奉仕的精神にもとづいて広く諸国に行商させたのがもとです。

黒部渓谷・宇奈月温泉

黒部渓谷一帯は中部山岳国立公園地帯に入り，東に白馬山脈，西に立山連峰の幽玄な山容を抱く大峡谷で，80kmにわたり，その間いたるところ懸崖高くそびえ，断崖は両岸深くせまり，また豪快な水態は黒部独特の景観を呈しています。

この峡谷の入口，黒部川の清流を眺望できる景勝地に宇奈月温泉街があり，ここは新緑，避暑，紅葉，スキーなど四季風物の興趣つきない山紫水明の別天地で，黒部奥地探勝の起点ともなつております。

なお，ここから黒部の上流へ39km，霊峰立山の真下，仙人谷落合対岸では目下，世界第2の規模を誇るアーチ式ダム工事が進められており，一大人造湖が実現のあかつきには立山，信濃大町間ルートに異彩を放つものと思われます。

中部山岳国立公園「立山」

古くから富士山，加賀の白山とともに日本三霊山の一つとして知られ，標高3,015m，北アルプスの主峰であり中部山岳国立公園立山連峰の王座を占めております。

また，その左右には浄土，別山，剣岳，大日，薬師などの山々はじめ地獄谷，弥陀ケ原の大高原，随所に展開する花畠，日本最高の落差400mを有する弥名滝，峡谷，温泉，原始樹海，高原ホテル，山小屋が見られ，規模の大きなこと，変化に富む景観は他に類がなく，全くの別世界です。

近年になつて特に立山の開発が目覚ましく，山上バスや雪上車が運行されるようになり，登山は勿論，ハイキングに，紅葉探勝に或はスキーに，ここを訪れる県内外客のたえまがありません。

なお，只今この立山と長野県大町を結ぶ大観光ルート開発の計画が進められており，国際観光地としてデビューする日も近いことでしょう。

本県と富山県との比較

区　　分	茨城県	富山県
人　　口（35.10.1）	2,047,024	1,032,614
市部人口	881,682	603,422
郡部人口	1,165,342	429,192
面　　積（km²）	6,089.68	4,252.03
海　　抜（m）	（水戸）29.2	（富山）8.6
平均気温℃（34.10）	15.9	16.1
降水総量mm（34.10）	158.8	193.1
快晴日数（34年）	54	35
降水日数（34年）	176	214
15才以上人口（34.7.1）	1,357,000	700,000
就業者（34.7.1）	966,000	480,000
農林就業者（34.7.1）	575,000	202,000
製造業就業者（34.7.1）	104,000	93,000
1人当り県民所得（33年）	73,958	91,194

第12回　全国統計大会

大会式次第

1 開会の辞
2 あいさつ
　富山県知事
　富山市長
　大会長
3 表彰
　(1) 大内賞授与
　(2) 各省表彰
　(3) 全国統計協会連合会会長表彰
　(4) 懸賞論文入選者表彰
　(5) 統計図表入選者表彰
4 祝辞　祝電披露
5 受賞者総代謝辞
6 議事
　(1) 仮議長選任
　(2) 議長副議長選任
　(3) 議事録署名者選任
　(4) 議案説明
　(5) 審議委員選任
　(6) 委員付託
休憩

昼　　食

7　研究発表

8　パネル討議

9　議　　事

(1)　議案審査経過報告および採決

(2)　第11回全国統計大会の審議事項結果報告

(3)　次期開催地の決定

10　宣　　言

11　記念講演

経済白書の意義

東大名誉教授
経済学博士　大内兵衛

12　万才三唱

13　閉会の辞

休　　憩

14　演　　芸

郷土芸能

宣　言

統計は，今や，国家社会の発展の指針として，欠くべからざるものとなつている。

これは，われら，統計関係者の大きな誇りと喜びであり，限りない励ましでもある。

ここに，全国統計マンの結束と統計の発展をこいねがつて第12回全国統計大会が開催されるにあたり決意を新たにし，次のとおり決議する。

1.　われらは，利用者の要求を正しくよみとり，現行統計を再検討して，利用度を高める。

1.　われらは，統計技術の研さんにつとめ，とくに新鋭計算器械の導入をはかつて，統計調査の正確迅速と分析の高度化を期する。

1.　われらは，社会のあらゆる層に対し統計思想を普及し，統計教育を振興して，統計に対する理解と関心を深める。

以上宣言する。

昭和36年10月4日

第12回全国統計大会

本県関係の各省表彰受彰者（敬称略）

内閣総理大臣表彰

事業所統計調査　茨城県

都道府県吏員　高塚　繁　総務部統計課庶務係長

坪　たみ子　総務部学事文書課主事

市町村　吏員　武子　寿郎　水戸市役所総務部長

宇津野俊夫　谷田部町役場調査企画係長

宮田　良二　結城市役所統計係長

笹島　新重　那珂町役場統計広報係長

清宮久四郎　鉾田町役場調査係長

文部大臣表彰

昭和35年度教育統計調査　茨城県

全国統計協会連合会会長賞受賞者

一般表彰　長瀬　昇　北茨城市役所秘書課長

第9回統計図表全国コンクール入選者

第2部　中学校の部

入選4席　古河市からの東京通勤者

茨城県　石川　進
染谷幸一

2年　古河市立古河第二中学校

佳　作　結城の紬

茨城県　小谷野成子
染谷昌代

3年　結城市立江川中学校

パネル討議

議題「統計はうまくつかわれているか」

司会　行政管理庁統計基準局長　後藤　正夫

講師及びその発言概要（発言順序）

経済団体連合会事務局次長　古藤利久三

統計調査の結果発表が遅く，利用者の要望に充分応ずることが出来ないのではないか，また統計を利用する立場にあるものも，調査結果の利用方法にあやまりがあると考える。

東京教育大学教授　美濃部亮吉

うまくつかわれているかという議題そのものが莫然としたことばである。

統計は社会現象の一部しか表現しない。従つて条件を明確にして利用し易い様にすべきである。統計は過去の数字であるが，これから将来はこうなると決めてしまうおそれがある。またサンプル誤差も明示すべきである。

富山県知事　吉田　実

統計は正しくつかわれている。総合開発の基礎となつたのは，総て統計調査の結果を有効に使つたものである。富山に関する限り県勢の基礎は統計にあることを申し上げる。

農林省農林経済局統計調査部長　久我　通武

統計を作成する立場からみると，現在の統計は内容も豊富であり，統計の種類も多くなつて来ている，また統計を行政に利用する方法もうまくなつている一例をあげれば，乳製品等の輸入についても，将来への予測の基礎として統計が重要な役割を果している。

大会参加記

上野発21時25分の急行「北陸」に乗つたのは，10月2日でした，この急行は途中まで電気機関車が牽引する快適な旅行でしたが，日本海にでた頃から蒸気機関車に代つて，吹雪除けのトンネルの多いコースを，黒い煤煙に咽びながら30分以上も遅れて富山入りをしました。

裏日本という言葉には後進的な感覚が含まれていると思いますが，車窓にうつる景色は，先ず第一に色彩感が乏しいように思われました，波の殆どない日本海をバックに，窓のすくない灰色の家屋が立ちならび，それが吹雪に耐える唯一つの方法だとしても，吹雪の，或いは積雪の威力を知らない私などには，何となく一種の侘しさが感じられました。記録（35年版日本統計年鑑）によりましても富山は降水総量が10月には水戸の21.4%も多く快晴日数は水戸の僅か64.8%に過ぎません。これら自然の条件が裏日本という言葉を生んだのでしょうか。

「裏日本を転じて表日本となさん」という富山県の吉田知事の豪快な気宇は，かつて北陸の雄上杉謙信の流れを受けついでいるのでしょう，吉田知事は大会のパネル討議でも富山の総合開発は総てその基礎は統計にあると断言して満場の統計マンの拍手を受けました。

富山県を本県と比較してみますと，面積は，本県の69.7%，人口も本県の50.5%と概ね半分であります。また就業者中に占める農林業就業者の割合は本県の62.6%に対して，富山県は44.3%となつており，また同様に製造業就業者の割合は本県が8.5%を占めるに対して，富山県が17.2%となつています。これからみましても，第1次産業では本県が非常に高率を示しており，製造業など第2次産業では逆に富山の方が高率となつています。従つて1人当り県民所得（33年）でも，本県の73,958円に対して富山県は91,194円となつております。

富山県はまたその東部及び南部は重畳たる山脈が連らなり，北アルプスの雄立山連峰が聳立しております。従つてこれら山岳を水源とする黒部・片貝・早月・常願寺神通・庄の諸川は何れも日本海に注ぎ，その上流は本邦最大の電源地帯として開発されています。

越中富山の薬屋さんで昔から広く親しまれている富山は，35年の生産額は30億円（注・富山県薬事工業生産動態調査によれば35年医薬品最終製品生産額 3,080,412千円）に達しております。この富山県も，安く豊富な水力発電を基礎に各種製造業が盛んで，化学・繊維・鉄鋼・機械等の工業は近年めざましい発展を遂げております。

大会の当日即ち10月4日は前日に引きつづく曇天で，時折霧雨の降る天候でした，会場は昭和29年に完成したという富山市公会堂で，工費2億数千万円を投じたという立派なものであります，会場の受付けで府県別入場者の確認などあると思いましたが，そのような事もなく，とに角，関東甲信静ブロックの席に入場しました。開会早々に歓迎のあいさつがあり，先ず開催県である吉田富山県知事からは，概ね次のようなあつさつがありました。

「統計は今や国家社会の発展の指針として必要欠くべからざるものとなつていることは，申すまでもありません。統計関係者のみなさまの不断の御努力により，正確迅速な統計資料が作成され，中央，地方の施策に資されていることにつき，施政の一端をになう者として，心から感謝のことばを申し上げます」。

この大会は表彰のほか統計職員の日頃の研究成果の発表や記念講演がありますか，これを機に決意をあらたにし，一そうご研さんのうえ，統計の発展にお尽しくださいますよう念願いたします。

また，主催地の湊富山市長からは

「統計は政治，経済，文化等の基礎資料として，その進歩向上に不可欠のものであり，近年官公衛や民間会社など広く各分野にわたり活用せられつつありますことは，ご同慶にたえぬところであります。戦後わが国の統計は制度，機構および技術の面で画期的な進歩を遂げましたが，精度，速度などまだまだ多くの問題の解決を必要としております。日夜わが国統計の進歩発展に寄与貢献しておられますみなさまが，この大会を通じ統計功労者の業績をたたえ，幾多困難な課題について研究討議されますことは意義深いことであります」。

主催者の立場からは，全国統計協会連合会の大内会長から

「わが国の統計が最近急速に進歩したことは，日本はもちろん，世界中で認められていますが，統計の利用については開拓する余地は，まだたくさんあると思います。パネル討議もそのことがテーマになつておりますが，統計の利用が深まると，またそれに応じて新しい統計が提供されなければなりません。すなわち，われわれ統計関係者の責任は，今後ますます重く，われわれは自ら日本社会の大きな縁の下からささえてゆかなくてはなりません」。

引きつづいて表彰や祝電披露などがあり，その後議事に入り，研究論文の発表がありました。

先ず宮城県の後藤係長の「農業センサスの精度について」は階層別農家数の動きを昭和22年から35年までを，三つに区分して説明し，単県調査と国の行うセンサスとの時系列的比較からその精度に言及したもので統計的に興味のあるものでありました。

次いで名古屋市の杉本主事の「県民所得からみた若干の問題について」という発表がありましたが，3次産業の発展度合は経済発展の尺度とはならないという論旨はいささか統計上の証明がなされておらず，同氏の考え方

の開陳といつたものに見られました。これは制約された時間内の発表のためでもあるのでしようか。

パネル討議では，別報のとおり久我・古藤・美濃部・吉田の各講師から「統計はうまく使われているか」について調査結果の発表が遅すぎるのではないか，統計が過去の数字の累積であるのに，これをもつて将来を規正してしまうおそれはないか，総合開発の基礎は統計資料にあるなどと各分野にわたつて討議が行なわれ，後藤基準局長の司会でスムースに，しかも興味深い討議がなされました。

また本大会中最大の関心をもつてみたものに全統連会長大内兵衛博士の「経済白書の意義」という記念講演があります。この内容の概要をここに紹介してみましよう。

全国の統計マン諸君今年もまたここ富山において日本統計の進歩について語ることの出来るのは，私の喜びとするところであります。

富山は北アルプス立山連峰が富山県を抱くように聳え日本海がその北に面して開いております。黒部・神通等の諸川は，一たび暴れると，大名も知事も困つたものでありますが，今日ではこれら諸川は，日本最大の電源地帯となつております。

われわれは統計が常に正しく使われ，日本の政治が，より発展することを願つております。

経済白書を政府がつくるようになつたのは，自由経済にも規制が必要であることを意味するものであります。この点この経済白書は民主的な出版物であると思います。しかしその蔵するところ600頁の立派な出版物ではありますが，内容は本当に国民生活のためになつているのでしようか。経済白書は各報告書の中で最も重要な報告書であります，この示すものは日本の経済に極めて重要な力をもつております。

白書が始めて作られたのは，27年片山内閣の時であります。元来その国の経済を判断するのは，学者の仕事であります。政府の仕事ではありません。

ソ連では政府が行つており，アメリカでは政府の予算について政府が報告書を作つております。イギリスの書は極めて学問的であると定評があります。

日本政府は，これを真似て第1回経済白書を作つたのであります。名称も経済報告書から，経済年次白書となりました。経済について政府が正しい認識をすると同時に日本国民の1人1人が正しい認識をもつことが絶対に必要であります。学者の意見も正しい資料がなければなりません。内容が政府だけのみでなく，国民の生活を満たすものでなければならないのであります。本年は経済白書でその下に経済成長課題と書いてあります。昭和35年は国民生産の成長率は非常に高かつた，元来日本経済の成長は戦前から早かつたが，現在は更に早くなつております。投資が余りに盛んになると投資が行きすぎることが多いが，わが国にはこの徴候がみられない，しかし貿易が悪くなつたり，高物価が部分的にはでるだろうといつております。日本経済という優良児は，どんどん生長しているといつておりますが，それをそのまま受けとつても良いものでしようか。経済学者のつくつておる平和経済計画会議というものがあります，この経済会議の白書は，どちらかといえば非観的であります。どちらが正しい見方でありましようか，（更に資本金1億円以上の会社は，僅かに0.4%でありますが，その占むるところの資本財は全国の70%におよんでおります，従つて政府の所得倍増計画が国民の生活をうるほしているといえるでしようかという点に言及し，更に経済の生長は，早い生長を希望するというのは，本心でもありますが，我々の生活がよくなる方が大切であります。しかしながら白書は，生長経済を課題としており，国民経済を課題としているのではありません。政府と白書とのあいだを見ると，ここ数年ますます経済生長一辺倒の傾向を強くし，国民経済の白書ではなくなつております。今後7.2%づつ上昇して国民生活が，10年後には倍増するといつておりますが現在の白書は，池田政策につきすぎていると思うのであります。

「国に争臣なければ国亡ぶ」といいます。強烈な正義の精神，統計の示す真実には絶対にしたがうという精神が必要であります。すべての統計書は諸政策の立場でなく，デモクラシーの立場に立つて作成されなければなりません，目前の諸々なものから離れ，天心に輝く月のような正しい統計書を作るべきであると考えるものであります。（この講演内容については本誌2月号に詳報する予定です。）

大会を通じて印象の深かつたというのは，上に挙げた大内会長の記念講演にあつた「各報告書の作成は，時の政策に左右されず，統計の真実性をまもるに誇りをもつて，天心に輝く月のような心で作るべきである。」ということでありました。

また反省すべきものとしては，パネル討議における「統計はうまく利用されているか」という問題であり，うまく利用されるためには，うまく作られているかという反省が前提になるべきで，私ども統計を作る立場にあるものすべてが，統計界の前進のため，統計機構のあり方や調査方法等全般について，果して現状で満足すべきか，或いは，どう改善すべきであるかという点について更に謙虚な反省が，必要なのではないでしようか。

（一本杉）

(私)　(の)　(初)　(夢)

元日の朝は，自然現象の中ではなんら昨日と変りがない，いつもと同じ朝なのだが，何んとなく元朝らしく感じられるから不思議である。環境も，周囲も元旦となると正月らしい雰囲気につつまれてしまつて，気持からして，ああ正月になつたんだと，納得させられてしまうようである。めでたくなくても，金があつてもなくても一応は鹿爪らしく〃お目出度う〃と挨拶をする。もつとも昔のヒネクリヤが，門松は冥土の旅の一里塚，めでたくもあり，めでたくもなし〃なんて皮肉つているし，案外人間の心の中にはこんな気持の人も多いんではないだろうか。

さて今年は寅年，猛虎一声，勇猛果敢に飛躍する年となりたいものである。

正月といえば，昔はタコ揚げ，こま廻し，追羽根，万才などいろいろな正月の風物が，庶民の気持をのんびりと休養させてくれたものであるが，最近の正月はどうだろう，科学の急展によつて，諸事あわただしく，めまぐるしい社会にあつては，周囲も，気持の上でも何んとなくあわただしく正月などはフツトンで行つてしまう。

初夢からしてが，一富士，二鷹，三茄子ビなどと判じ物みたいなものが尊ばれたものだが，現在では夢まで社会生活に直結した生々しいものを見るようになつたと感じられる。

さて統計マンとして1962年の初夢はどんなものであつたろうか。夢は見ているうちが楽しいものである。覚めてしまえで何んとはかないものであろうか。以下……私は統計資料室の一隅に，統計資料の整理に余念がない。明るい近代的な，この資料室は，各種の統計資料が，種類別に，年代順に，書類番号を見せて整然と並べられ，整理カードによつて自由に引き出されるようになつている。暖房に部屋全体が暖かく，上着なしで執務出来るのは全くありがたい話で，今も閲覧室には，何処かの人が3人ほど統計資料と首つ引きでさかんに研究している。テーブルには紅いカーネーションが風情を添えている。

向うの製図台では若い係員が統計図表の作成に余念がない。そういえば，真白な壁面には新しい統計図表が貼られていて，いかにも統計資料室という感じを深めさせてくれる。

この資料室が設けられてから，急激に閲覧者や，資料の問合せが多くなつて，係員をして嬉しい悲鳴をあげさせる始末であり，ここに来れば何んでも統計のコトは判かるというので，官公庁の人はもちろん，一般社会の人達や，学生などが，各種の施策の基礎資料として，あるいは企業整備，拡充などの資料を求め，子供の勉学のために，学校教育の参考書として，訪れて来て，熱心に係員を閉口させる程突つ込んだ質問をするようになつてきたことで，いきおい係員たるもの常に研さんに努めねばならないことになる。

日本の統計も全く進んだものである。それと同時に，社会一般の人達の統計に対する考え方が変つてきたことだ，小，中学校でさかんに統計教育をやつてきたが，現在その成果が立派に実つたことになろう。統計思想の発展ということだが，これは統計調査の実施の面にも表われてきたことだ，以前は統計というと，何んか，その裏に自分達に不利になる何物かがあるんじやなかろうかなどと勘ぐつて正確な記入をしてくれなかつたものである。今では一般の人が，統計の趣旨を良く理解してくれて，進んで協力してくれる。だから，迅速に，正確な資料がつぎつぎに作り出され，新しい資料が多くの人達に利用されるようになつた。また以前，一番難かしい調査であるとされた経済統計にしても，或る国でやつているような郵送方式で正確な申告をしてくれるようになつたことは大助かりなことである。

政府や，地方自治体や，各種の企業体も，以前のように口先だけではなく，真に統計の重要性ということを認識し，それぞれの立場において，統計による政治，統計を基礎とした各種の施策によつて，産業開発や，もろもろの諸政策にも輝やかしい実績を挙げていることは事実で，進んで新しい使うための統計が企画，立案，実施され大いに文化国家建設に役立つており，住民の社会福祉も向上して，楽しい住み良い郷土の建設が着々実現されている状況である。

また，第一線を担当する統計調査員も以前は，人を得るのに骨を折つたが，今は優秀な人材が進んでなつてくれる。もつとも以前と違つて，手当などの面でも優遇されてはいるが。

この資料室の隣は，集計室になつており，近代的な電子計算機などが設備され，若い人達の手によつて次から次へと新しい統計が作り出され，資料係によつて迅速に結果が発表されて，それぞれの部門に利用されるような仕組になつている。今も電子計算機のキイの音が，快よいリズムとなつて，この資料室まで伝わつてくる。私の資料整備の手もリズムに合せ踊つているようだ。

〃お父さん，お雑煮がさめますよ〃山の神のかん高い声に私の快よい初夢も破られて，現実の社会に引きもどされた次第である。（筆者は県統計課学事統計係長）